

【地下水位モニタリング調査結果】

1 測定概要

保有水位・地下水位の観測は、観測井戸設置後に自記録式水位計を設置し、1時間毎に連続観測を実施している。調査数量は以下のとおりであり、調査位置図を図-1に示す。

位置	スレナ-位置	数量	孔番
処分場内	廃棄物	5	Hb2, Hb3, Hb4, Hb6, Hb9
処分場周辺	埋立土砂部	4	Sb1, Sb3, Sb14, Kb1
	岩盤部	6	Sb4, Sb8, Sb11, Sb13, Sb15, Sb16

2 観測結果

これまでの観測結果を基に作成した保有水位・地下水位の変化図を図-2～3に示す。これらの変化図から保有水位・地下水位の特徴は以下のとおりである。

なお、併記した降水量データは、気象庁敦賀観測所のデータを使用している。

(1) 処分場内の保有水位

保有水位は、処分場中央～南側で標高約142～149m付近に位置し、北側では標高127～145m付近に位置する。各保有水位の季節的変動傾向は類似している。

北西側（Hb3孔）では、降雨時の一時的な水位変動による傾向が顕著である。原因としては、周辺地下水位に比べ特異な挙動を示すことから、地表面からの雨水浸透の影響によるといえる。

融雪時には、処分場中央部（Hb2,3,6,9孔）では、約3～5mの水位上昇が認められ、また、60mm以上の降雨時には、約2～3mの水位上昇が認められる。北東側（Hb4孔）では、保有水位の変化は緩やかであり、約3m前後の水位変化を示す。

(2) 処分場周辺の地下水位

ア) 埋立土砂部

処分場周辺の南側（Sb1, 3, 14孔）での地下水位は、標高約120～144m付近に位置する。

融雪時および60mm以上の降雨時には、処分場南東～中央部（Sb1, 3孔）では約2～5mの水位変化が認められ、処分場南西側（Sb14孔）では最大で約10m程度の水位上昇が認められる。

処分場周辺の北側（Kb1孔）での地下水位は、標高約73～75m付近に位置し、全体に水位変化は緩やかであり、約1～2m前後の水位変化を示す。

イ) 岩盤部

処分場周辺の南～西側（Sb4, 13, 15, 16孔）での地下水位は標高約126～180m付近に位置する。

融雪時および降雨時には、処分場南東部（Sb4孔）では他の岩盤部の観測孔と比べ水位変化は緩やかであり、約2m前後の水位変化を示す。処分場南西～西側（Sb13, 15孔）では、融雪および降雨時の変化が顕著であり、約3～4m前後の水位上昇が認められる。

処分場周辺の北側（Sb8, 11孔）での地下水位は、標高約70～77m付近に位置し、約2～3m前後の水位変化を示す。

(3) 処分場周辺の地下水位分布および地下水流向

観測結果を基に作成した地下水位等高線図（コンターマップ）および代表断面図を図-4に示す。この地下水位等高線図の作成には、平成18年8月30日に既存観測井戸全てを対象とした一斉観測水位を使用している。処分場周辺の地下水の流動方向としては、東～南～西側の周辺山体から、岩盤の上面形状に沿って処分場下やその近辺を流下し、北側の木の芽川へ流れ込む傾向と考えられる。

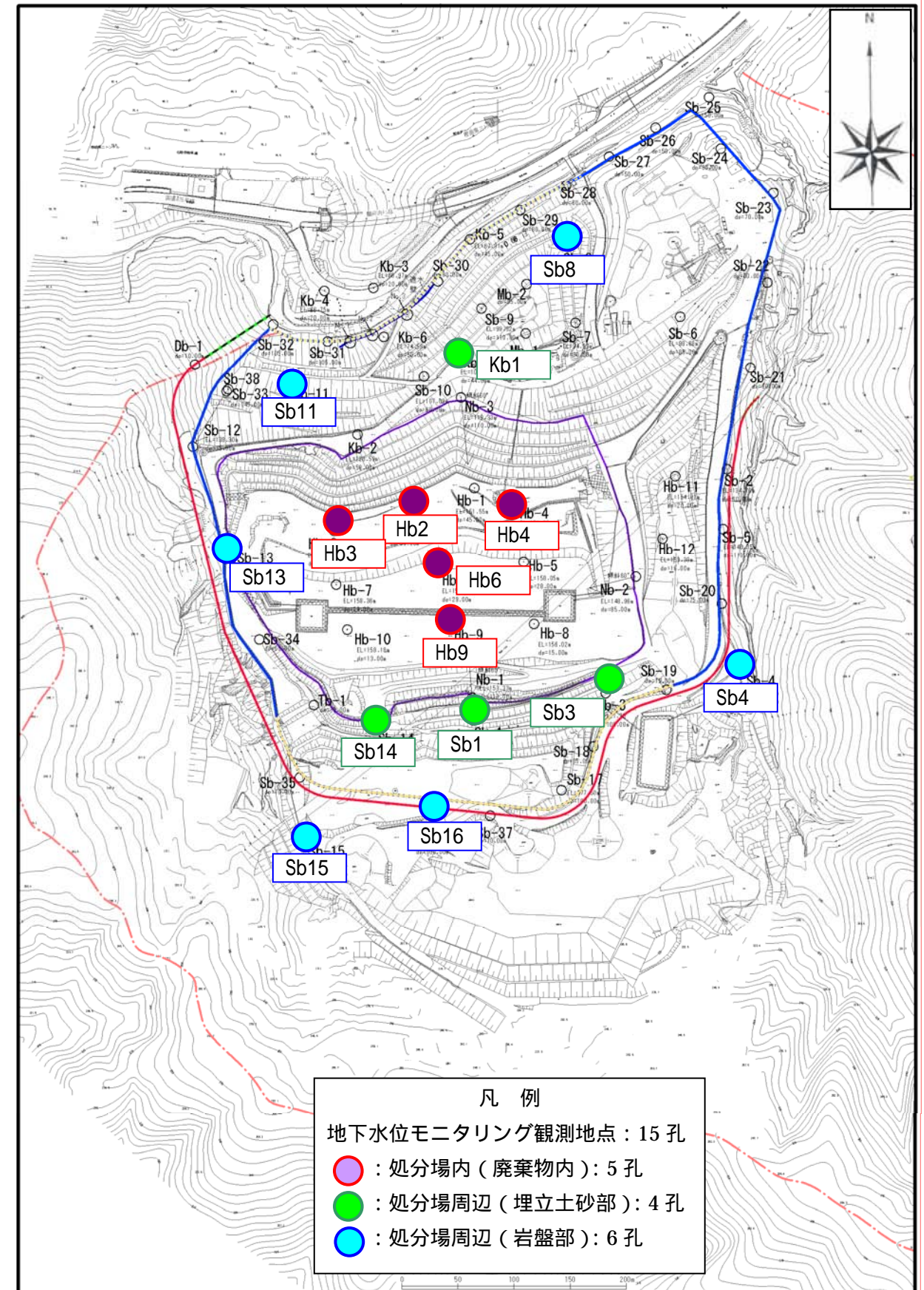


図-1 地下水位モニタリング調査地点位置図

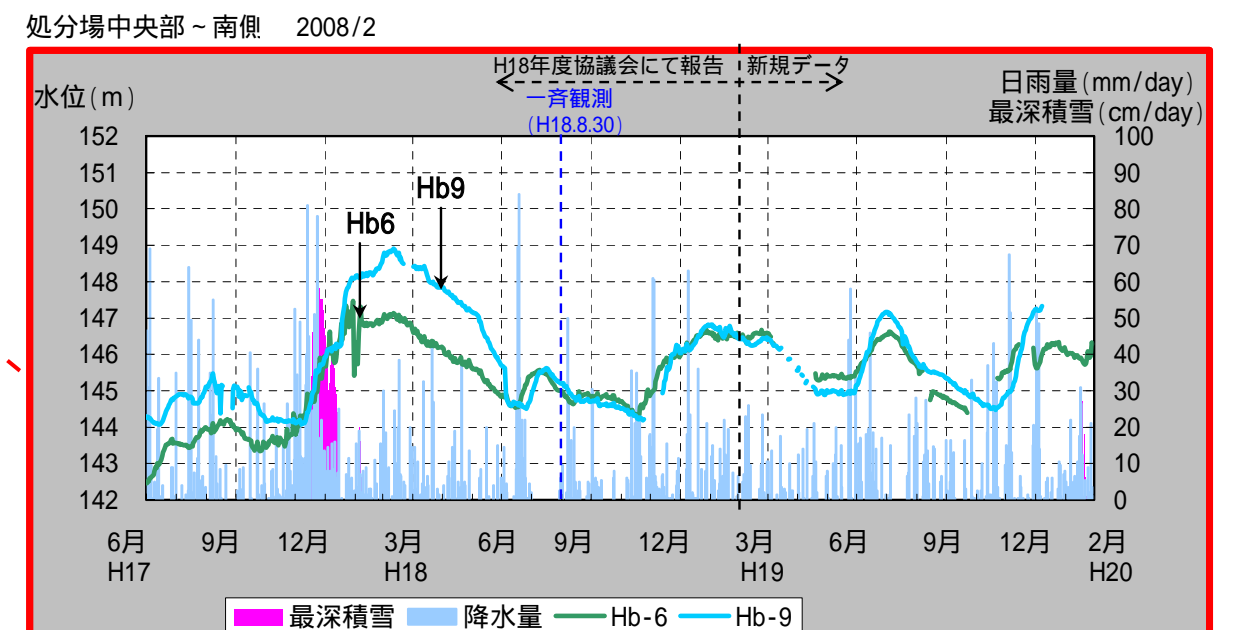
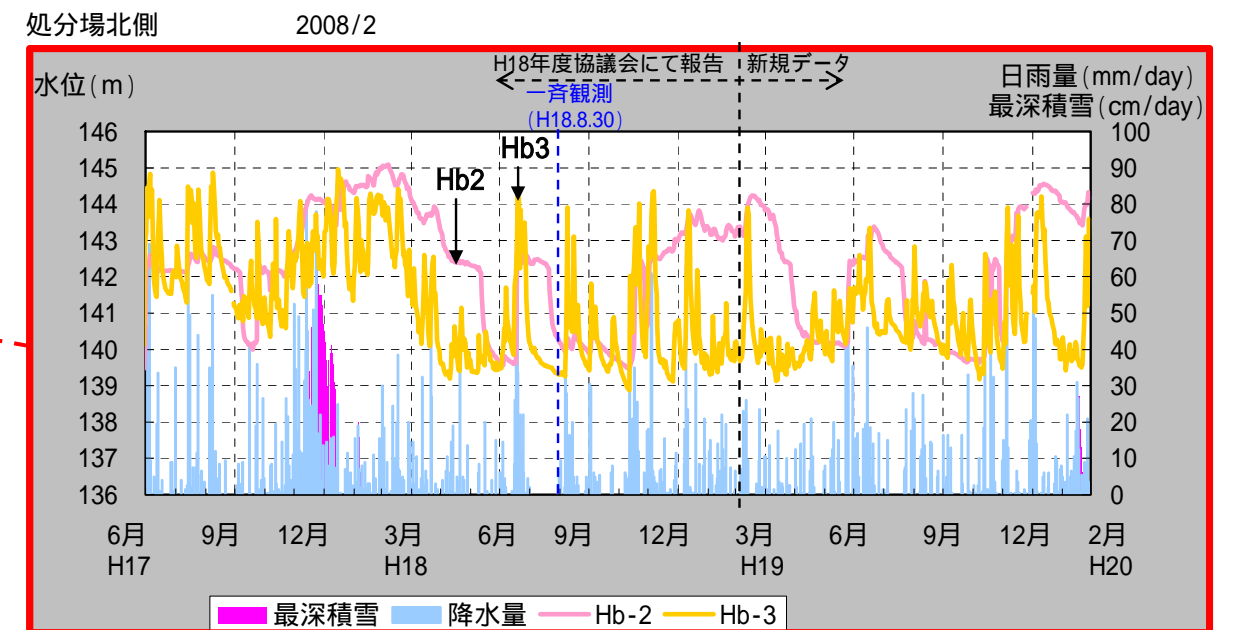
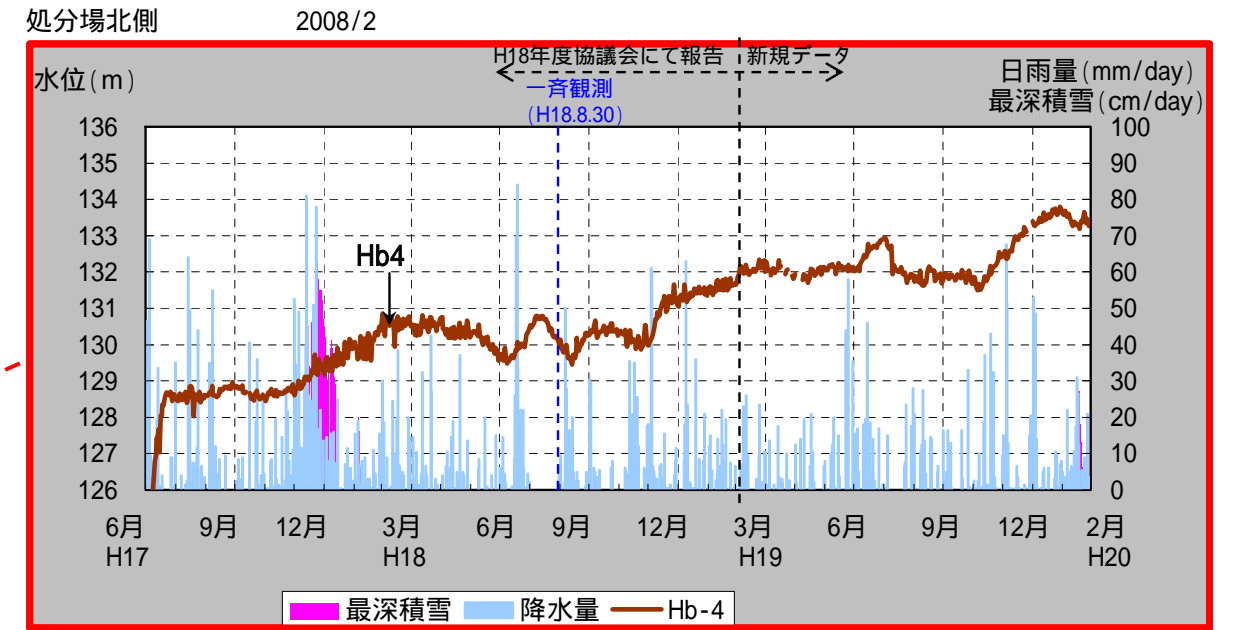
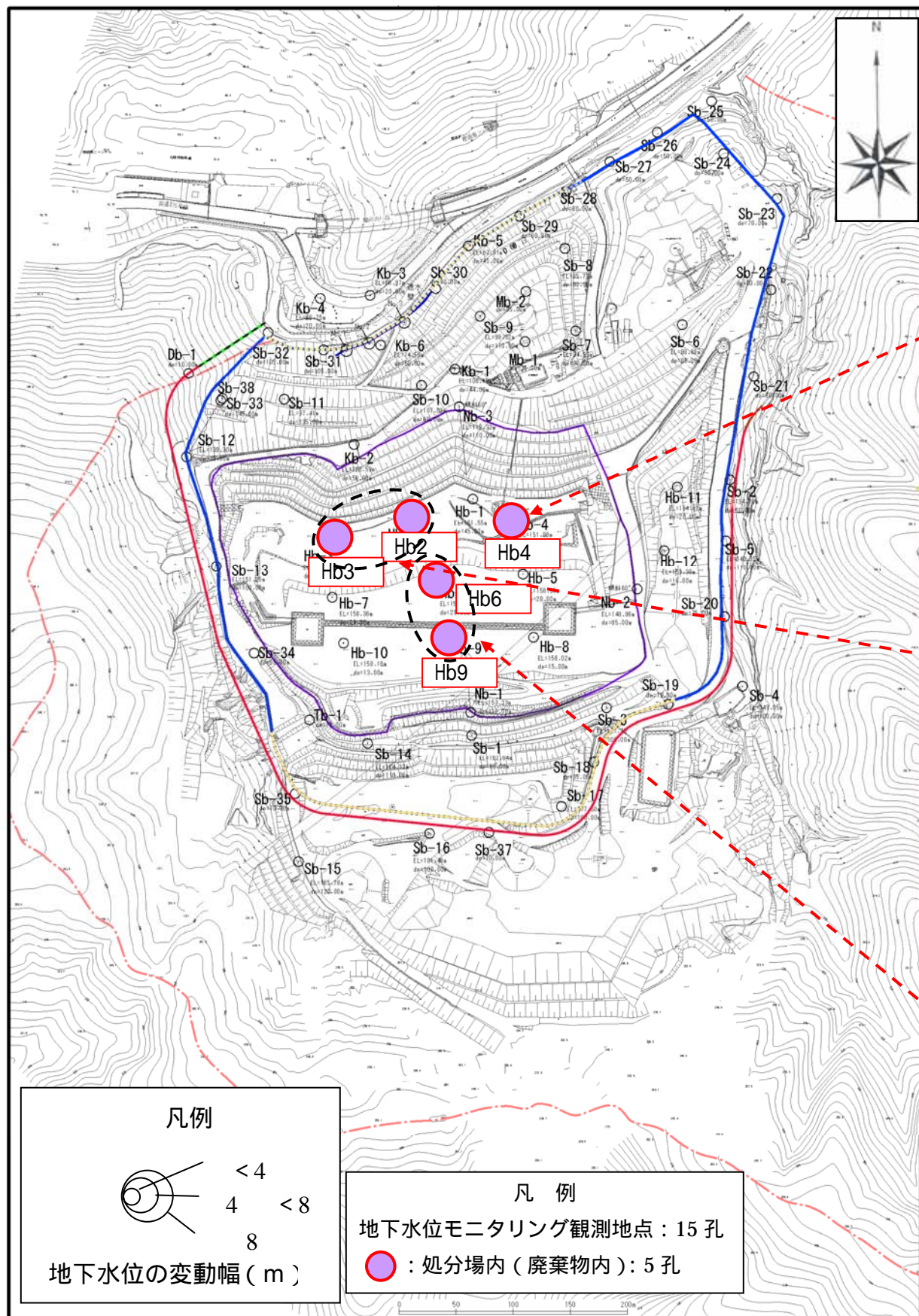
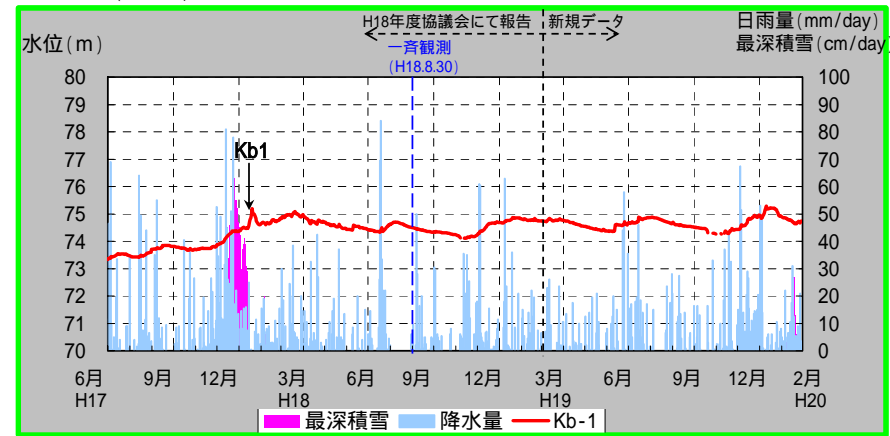
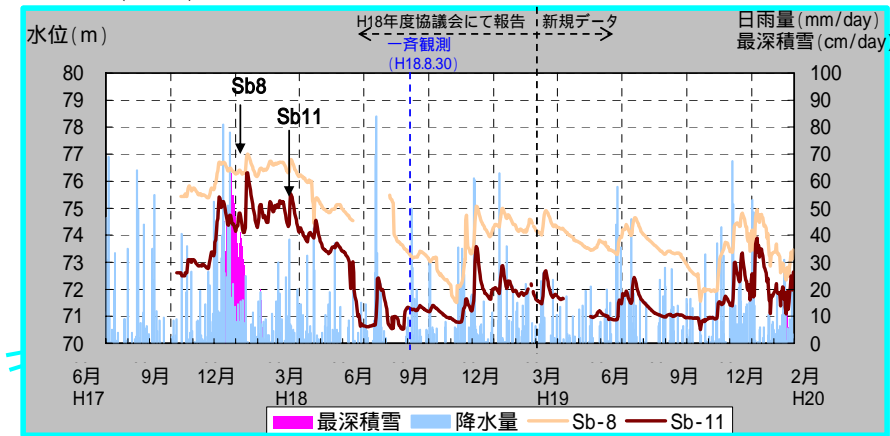


図-2 処分場内の保有水位観測結果図

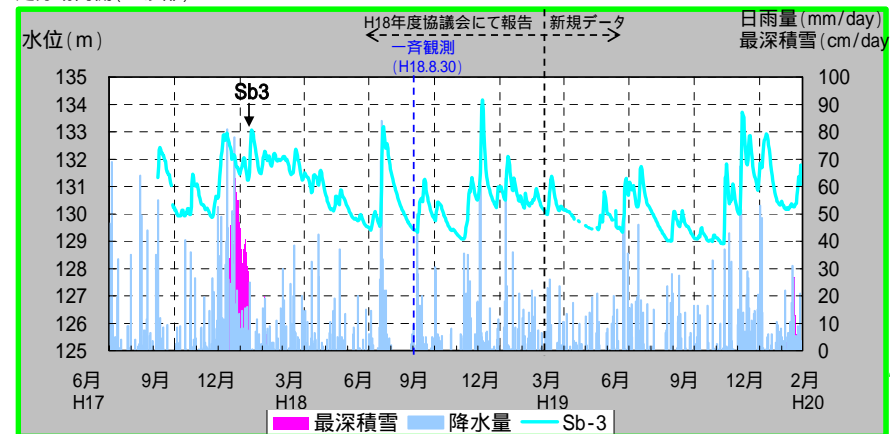
処分場北側(盛土部) 2008/2



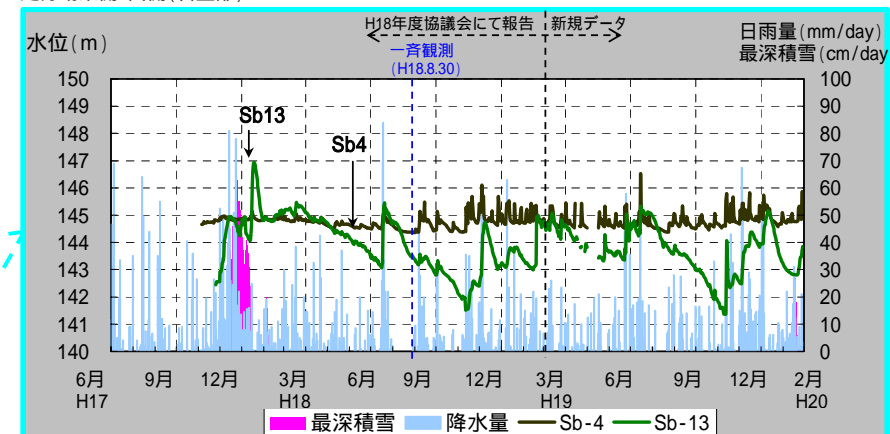
処分場北側(岩盤部) 2008/2



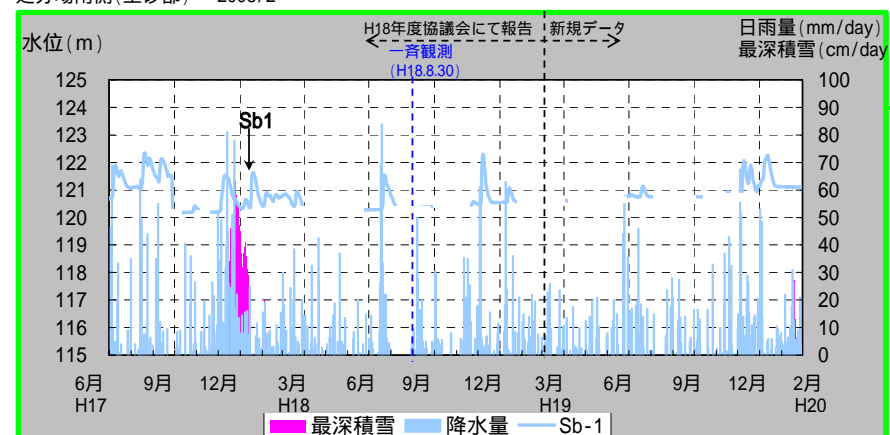
処分場南側(土砂部) 2008/2



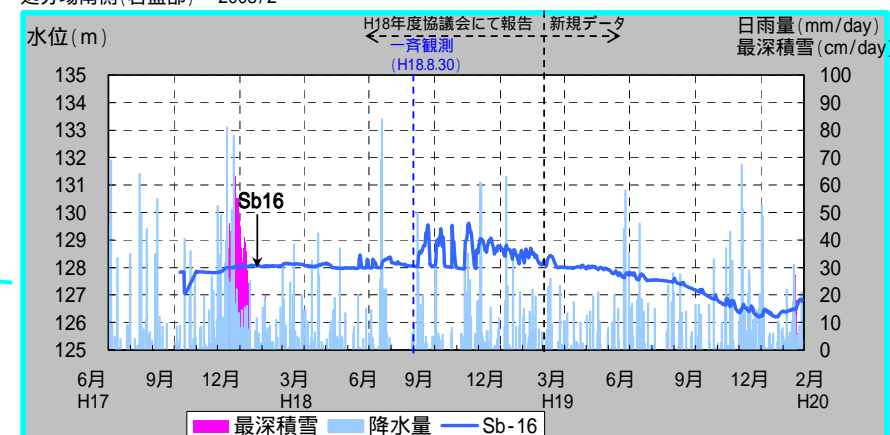
処分場東側・西側(岩盤部) 2008/2



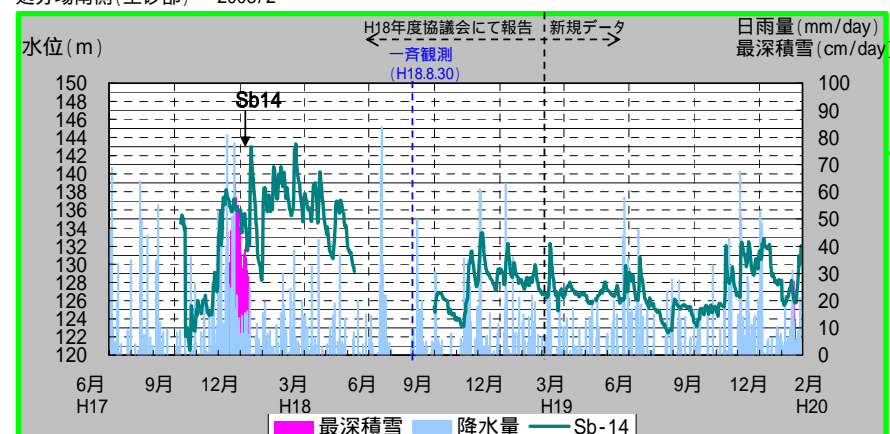
処分場南側(土砂部) 2008/2



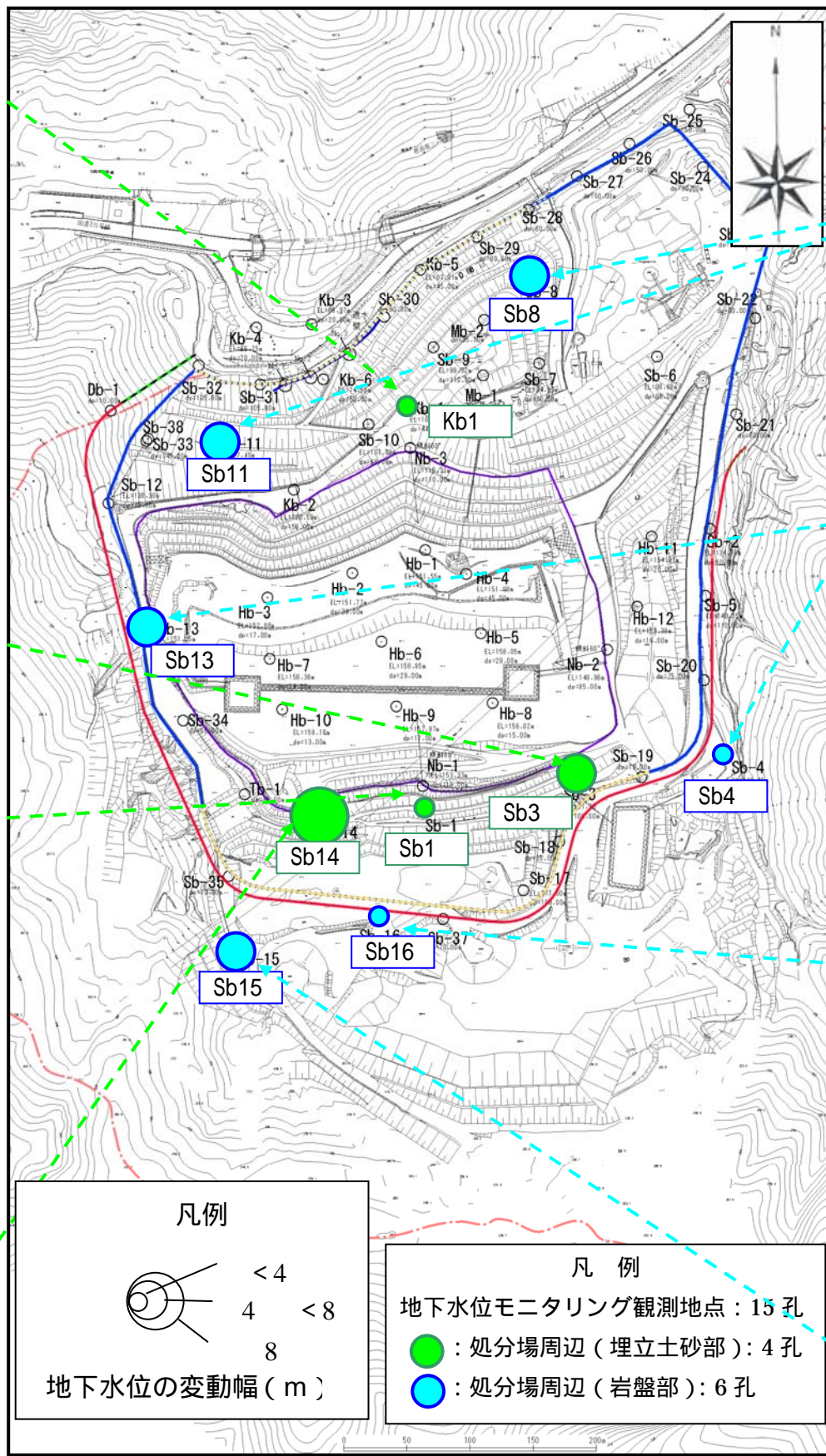
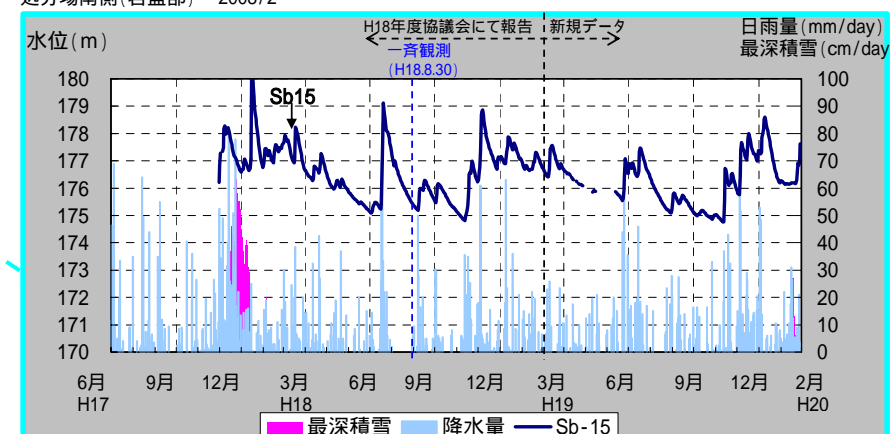
処分場南側(岩盤部) 2008/2



処分場南側(土砂部) 2008/2



処分場南側(岩盤部) 2008/2



凡例

地下水の変動幅 (m)

- < 4
- 4 < 8
- 8

凡例

- : 処分場周辺(埋立土砂部): 4孔
- : 処分場周辺(岩盤部): 6孔

図-3 処分場周辺の地下水位観測結果図

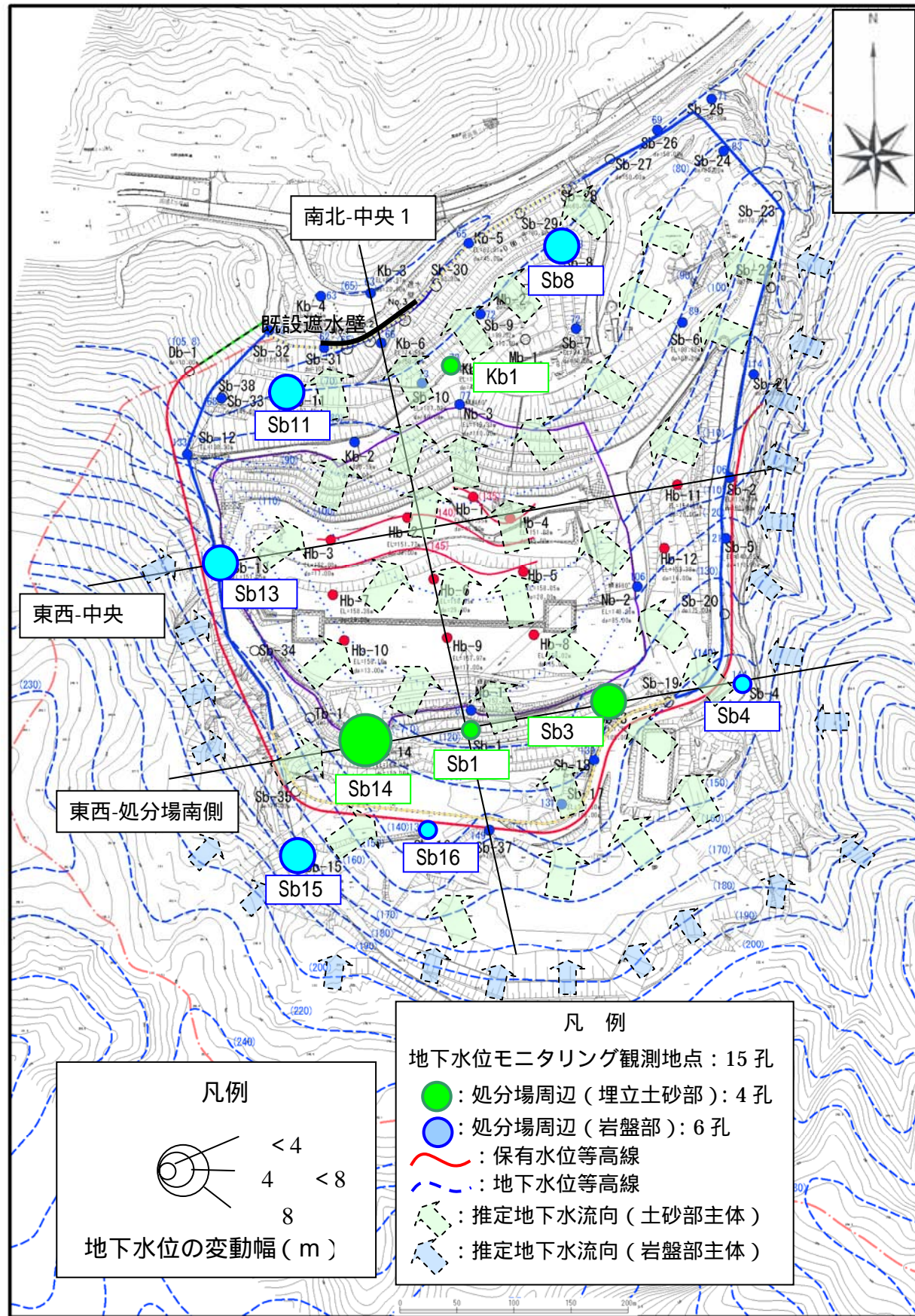


図-4 処分場周辺の地下水水位等高線図および推定地下水流向

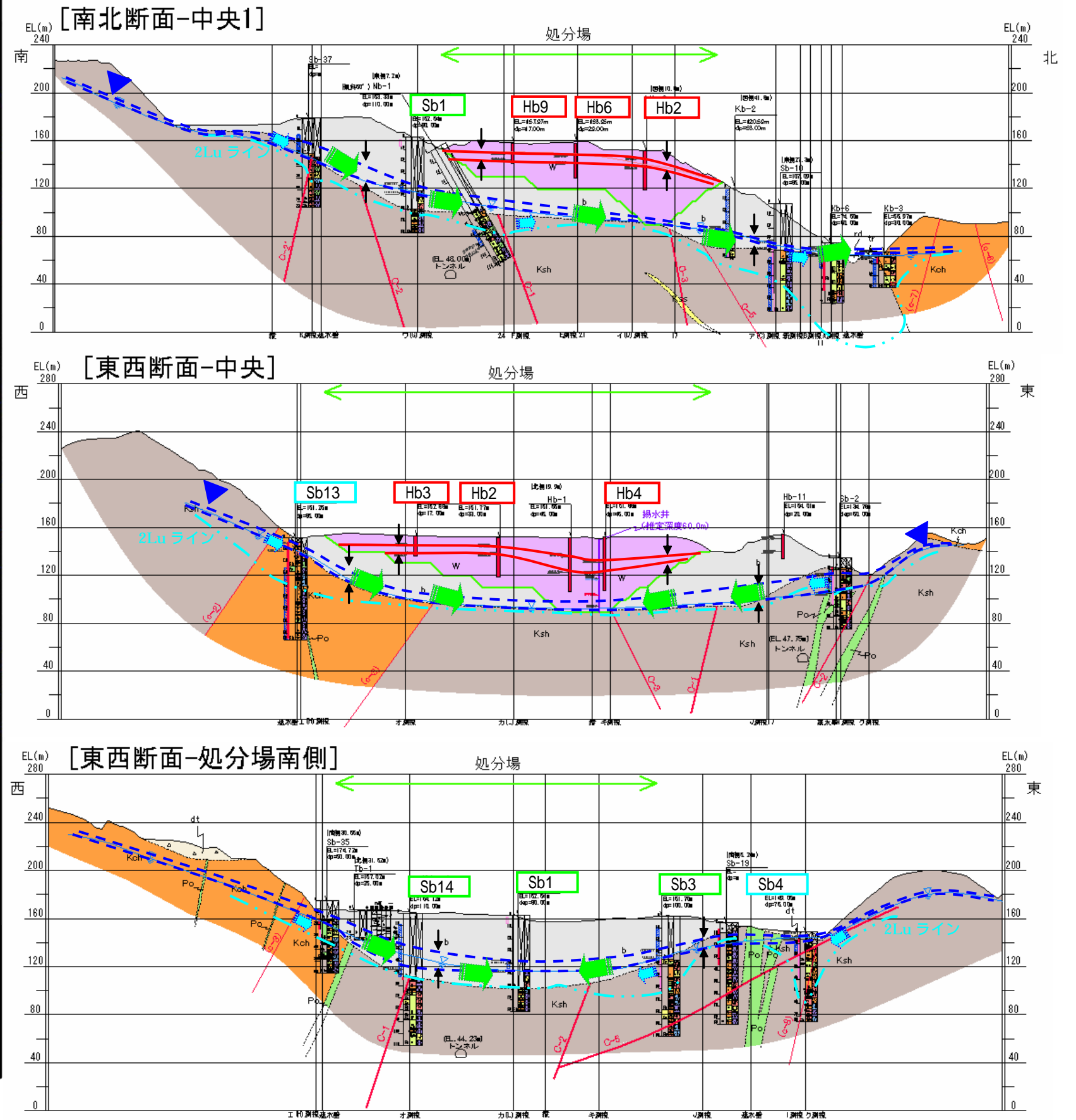


図-5 処分場周辺の代表断面図および地下水水位変動図